



最初にお読みください

# CentreCOM® 9424T/SP リリースノート

この度は、CentreCOM 9424T/SP をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。  
このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解い  
ただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。  
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 1.1.1

### 2 バージョンアップ時のご注意

ファームウェアバージョン 1.1.0a でフラッシュメモリーの中にアプリケーションブロックと  
いう領域が追加され、ファームウェアのバージョンアップ作業はこの領域に対して行われるよ  
うになりました。これにより、ファームウェアのダウンロードに使用するコマンドが変更され  
ていますので、ファームウェアバージョン 1.1.0a 以降でバージョンアップをする際はご注意  
ください。

○ TFTP でのダウンロード

```
LOAD METHOD=TFTP DESTFILE=APPBLOCK {SRCFILE|FILE}=filename  
SERVER=ipadd
```

○ Xmodem でのダウンロード

```
LOAD METHOD=XMODEM DESTFILE=APPBLOCK
```

バージョン 1.0.0 でバージョンアップをする場合は、DESTFILE パラメーターにファームウェ  
アダウンロードのためのキーワードとして「ats63.img」を指定していましたが、バージョン  
1.1.0a 以降でバージョンアップをする場合は「APPBLOCK」を指定します。


バージョン 1.1.0a 以降で、DESTFILE パラメーターに「ats63.img」を指定した場合は、通常  
のファイル名として扱われ、フラッシュメモリーにファームウェアファイルを保存することが  
できます（本製品は自動的にバージョンアップを行いません）。

詳細については、「CentreCOM 9408LC/SP・9424T/SP 取扱説明書（J613-M0109-10  
Rev.B）」または「CentreCOM 9400 シリーズ コマンドリファレンス 1.1（J613-M0109-12  
Rev.D）」をご覧ください。

### 3 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 1.1.0a から 1.1.1 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が  
追加されました。

#### 3.1 SNMPv3 対応について

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP バージョン 3（SNMPv3）に対応しました。詳細については、「CentreCOM 9400 シ  
リーズ コマンドリファレンス 1.1（J613-M0109-12 Rev.D）」の「SNMP」の章をご覧くだ  
さい。

## 4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.1.0a から 1.1.1 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 SET SWITCH PORT SECURITYMODE コマンドでセキュリティーモードを変更する場合に、PORT=ALL が指定できるよう修正しました。
- 4.2 SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される受信エラーの数「No. of Rx Errors」が、フラグメントフレーム受信時に正しくカウントされるよう修正しました。
- 4.3 RRP スヌーピング有効時、ESRP/VRRP パケット受信後に SHOW VLAN コマンドを実行すると、「GARP Tagged Port(s)」という不要な項目が表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.4 SHOW SNMP コマンドの出力結果が 1 ページよりも長い場合、表示を中止し、プロンプトに戻るためのキー「Q」を入力すると、不要なエラーメッセージが表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.5 プライベート MIB atiStkSwSysConfigInfo の atiStkSwSysReset が get-request に対して no-reset (1) を返すよう修正しました。
- 4.6 プライベート MIB atiStkSwEthStatsGroup 内 atiStkSwEthModuleErrEntry の EthModuleErrRxBadFrames がオーバーサイズパケットを正しくカウントするよう修正しました。
- 4.7 プライベート MIB atiStkSwEthStatsGroup 内 atiStkSwEthPortErrEntry の EthPortErrRxBadFrames がエラーパケットを正しくカウントするよう修正しました。
- 4.8 ブリッジ MIB dot1dBridgeMIB の dot1dTpLearningEntryDiscards および dot1dTpAgingTime が get-request に対して正しい値を返すよう修正しました。
- 4.9 MIB-II interfaceMib の ifType が ethernetCsmacd (6) を返すよう修正しました。
- 4.10 システム名、システム管理者、システム設置場所の設定を SNMP マネージャーから行った場合に、ログメッセージが出力されるよう修正しました。
- 4.11 SET SWITCH PORT SECURITYMODE コマンドの INTRUSIONACTION または PARTICIPATE パラメーター指定時に出力されるログメッセージのポート番号が正しく表示されるよう修正しました。

## 5 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 1.1.1 には、以下の制限事項があります。

### 5.1 DISABLE DHCPBOOTP コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」


DHCP サーバーから取得した IP アドレスがリース期限切れによって解放された後、IP アドレスが動的に割り当てられていない状態で DISABLE DHCPBOOTP コマンドを実行すると、最長で約 2 分間コンソールターミナルからの操作ができなくなります。

### 5.2 CREATE QOS TRAFFICCLASS コマンドの MAXBANDWIDTH パラメーターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「QoS」 / 「ポリシーベース QoS」


- CREATE QOS TRAFFICCLASS コマンドの MAXBANDWIDTH パラメーターに 0（ゼロ）を指定すると、帯域ゼロのトラフィッククラスが作成されますが、このトラフィッククラスが割り当てられた QoS ポリシー作成直後の一定量の通信、および本製品再起動直後の一定量の通信に限り、該当ポートからのトラフィックがフィルタされません（帯域ゼロになりません）。
- トラフィックが同一 QoS ポリシー内の複数のトラフィッククラスにマッチした場合、MAXBANDWIDTH パラメーター（最大帯域設定）が正しく動作しません。MAXBANDWIDTH パラメーターを指定する場合は、同一 QoS ポリシー内で、複数のトラフィッククラスにマッチするような設定（IP と TCP、TCP と TCP ポートなど一方がもう一方を包括するようなフィルターの指定）をしないようにしてください。

### 5.3 802.1X 認証について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「802.1X 認証」

- EAP-Success および EAP-Failure パケットは、ユニキャストで送信されます。
- ポートを Authenticator ポートに設定すると、同ポートで自動的にイーグレスフィルタリングが有効になり、その設定が設定ファイルに書き込まれます。Authenticator ポートではイーグレスフィルタリングが有効になっている必要がありますので、イーグレスフィルタリングの設定は変更しないようにしてください。

### 5.4 ポートランキングとタグ VLAN の併用について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

トランクグループの所属ポートをタグ付きポートに設定する場合、ポートごとに異なる VID を指定してもエラーになりません。

トランクグループの所属ポートは、すべて同一の VLAN 設定である必要がありますので、ポートごとに異なる VID を指定しないようにしてください。

### 5.5 ポートミラーリングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- ポートミラーリング機能が有効の場合、「01:80:C2:00:00:00」などの予約マルチキャストアドレスをソースポートで受信すると、ミラーポートからパケットが重複して送信されます。

- SET SWITCH PORT MIRROR コマンドの MIRROR パラメーターに RX を指定して受信パケットのみをミラーリングするソースポートとして設定した後、同じポートを対象として、SET SWITCH PORT MIRROR コマンドの MIRROR パラメーターに TX を指定すると、送信パケットのみをミラーリングするソースポートとして設定されるはずが、送受信パケットをミラーリングするソースポートとして設定されます。

## 5.6 マルチキャストフレームのフラッディング仕様の設定変更について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

SET SWITCH MULTICASTMODE コマンドでマルチキャストフレームのフラッディング仕様のみを変更し、SAVE CONFIGURATION コマンドで実行すると、設定の変更が起動時設定ファイルに保存されません。

マルチキャストフレームのフラッディング仕様の設定変更を保存する場合は、CREATE CONFIG コマンドで保存するか、SAVE CONFIGURATION コマンドを使用する場合は、他の設定変更とあわせて設定を保存してください。

## 5.7 スパニングツリープロトコルとポートトラッキングの併用について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」

スパニングツリープロトコルとポートトラッキングを併用した場合、ポートがリンクアップする順番によって、ルートポートになるポートが異なる場合があります。

## 5.8 Multiple STP について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」 / 「Multiple STP」

- MST リージョン名を設定する SET MSTP コマンドの CONFIGNAME パラメーターに NONE を指定しても、設定なし（デフォルト）に戻すことができません。PURGE MSTP コマンドを使用すると設定なしに戻すことができます。
- CIST におけるオルタネートポートと MSTI におけるデジグネットポートが同一ポートになるような構成で MSTP を動作させた場合、リンクアップ・ダウンによるトポロジー変更が発生してから通信が復旧するまで約 30 秒かかる場合があります。ブリッジプライオリティとパスコストの設定で、CIST におけるオルタネートポートと MSTI におけるデジグネットポートが同一ポートになる構成を避けてください。
- 本製品が指定ブリッジの場合、CIST ルートブリッジの Max Hop 値の変更が、本製品によって正しく認識されません（本製品から送信される BPDU には、Max Hop 値変更前に受信した BPDU の Remaining Hop 値から 1 減算された値がセットされています）。
- CIST のルートブリッジと MSTI のルートブリッジは同一筐体に設定するようにしてください。異なる筐体に設定した場合、MSTP が正常に動作しません。なお、CIST と MSTI を異なる経路で制御する場合は、パスコストを利用してください。

## 5.9 Rapid STP について


**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」 / 「Rapid STP」

- SET STP PORT コマンドでポートのパスコストを設定変更した後、ACTIVATE RSTP/ENABLE RSTP コマンドで Rapid STP を有効にすると、設定ファイルに Rapid STP のパスコストの設定が書き込まれます。この状態で設定ファイルを保存し、本製品を再起動するとパスコストの計算が不正な値で行われます。

- 本製品 2 台をループ状に接続し、一方のリンク間に BPDU パケットを透過するスイッチ（「スイッチ A」とします）を接続して RSTP を動作させた場合、スイッチ A に新たにルートブリッジとなる本製品 1 台を接続すると、正常にトポロジーが構築されない場合があります。

---

## 5.10 SHOW VLAN コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」

RRP スヌーピング有効時、ESRP/VRRP パケット受信後に SHOW VLAN コマンドを実行すると、「Untagged Port(s)」および「Tagged Port(s)」の内容が文字化けを起こして表示されません。

---


## 5.11 Operator のパスワード設定について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ユーザー管理」

Manager でログインし、Operator レベルのユーザーのパスワードを変更する場合、SET PASSWORD OPERATOR コマンドでは、パスワードなしの設定ができますが、SET USER=OPERATOR PASSWORD コマンドでは、パスワードなしの設定はできません。

---


## 5.12 スタティックエントリーの一括削除について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

DELETE SWITCH FDB STATUS コマンドで STATIC を指定し、スタティックエントリーの一括削除を実行した場合、複数の MAC アドレスが削除されても、ログには MAC アドレスが正しく表示されません。


---

## 5.13 SNMP MIB について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- プライベート MIB の atiStkSwSysProductInfoTable 内 atiStkSwSysDCState が正しい値を返しません。リダンダント電源装置「CentreCOM RPS3204」使用時は、SHOW SYSTEM コマンドで本製品の電源とリダンダント電源装置の電源の On/Off を確認してください。
- MIB-II AT Group の AtEntry、および IP Group の IPNetToMediaEntry が正しい値を返さないため、SNMP マネージャーから ARP テーブルを参照することができません。
- SNMP マネージャーから MIB-II SNMP Group の snmpEnableAuthenTraps を変更した場合、設定変更が起動時設定ファイルに書き込まれないため、設定が反映されません。

#### 5.14 SNMPv3のユーザーについて


 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

ADD SNMPV3 USER コマンドで、SNMPv3 のユーザーを作成した場合、その他の SNMPv3 に関する設定と異なり、CREATE CONFIG コマンドで設定ファイルに保存されないため、SET CONFIG コマンドで起動時設定ファイルに設定してから再起動すると、ユーザーの設定が残っていません。

設定を保存するには、SAVE CONFIGURATION コマンドを実行してください。

また、ユーザーを削除する場合は、DELETE SNMPV3 USER コマンドを実行し、SAVE CONFIGURATION コマンドを実行してください。

#### 5.15 攻撃検出機能について

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「攻撃検出」


- Land Attack および Smurf Attack の検出機能を設定する場合は、先に SET DOS コマンドで本製品が属するネットワークの IP パラメーターを設定してから、SET DOS LAND/SMURF コマンドを実行してください。先に SET DOS コマンドを実行しないと、SET DOS LAND/SMURF コマンドの設定がただちに本製品に反映されません。
- Land Attack および Smurf Attack 検出で使用する IP アドレスとサブネットマスクの設定がデフォルト設定 (0.0.0.0) の場合、プライベート MIB の atiStkDOSConfigLANIpAddress および atiStkDOSConfigLANSubnetMask は、0.0.0.0 を返すはずですが、値を返しません。また、コマンドラインインターフェースから、IP アドレスとサブネットマスクに値を設定し、SNMP マネージャーから上記の MIB の値を参照すると、本製品がリポートすることがあります。

#### 5.16 フォワーディングデータベースについて

 「コマンドリファレンス」 / 「フォワーディングデータベース」

リンクダウンをともなわない端末移動があった場合、学習機能により登録された MAC アドレスがエージングするまで、通信が復旧しないことがあります。

#### 5.17 SNMP経由のエンハンススタッキング接続について

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「エンハンススタッキング」

マスタースイッチからスレーブスイッチに SNMP 経由で接続している最中に、他のスイッチから該当のマスタースイッチに Telnet や SNMP による接続を行わないでください。

#### 5.18 複数ポートから 1 ポートへの通信について

- Jumbo フレームを複数ポートから 1 ポートに対して同時に送信すると、受信した 1 ポートからフレームが転送されません。
- ポートグループ 1 ~ 12 とポートグループ 13 ~ 24 間の通信において、複数ポートから 1 ポートに対して同時にパケットを送信し、パケットロスが発生した場合、送信ポートによってパケットの損失率にばらつきがあります。


## 6 コマンドリファレンスの補足

弊社ホームページに掲載されている「CentreCOM 9400 シリーズ コマンドリファレンス 1.1 (J613-M0109-12 Rev.D)」の補足事項です。

### 6.1 HTTP サーバー（サポート対象外）について

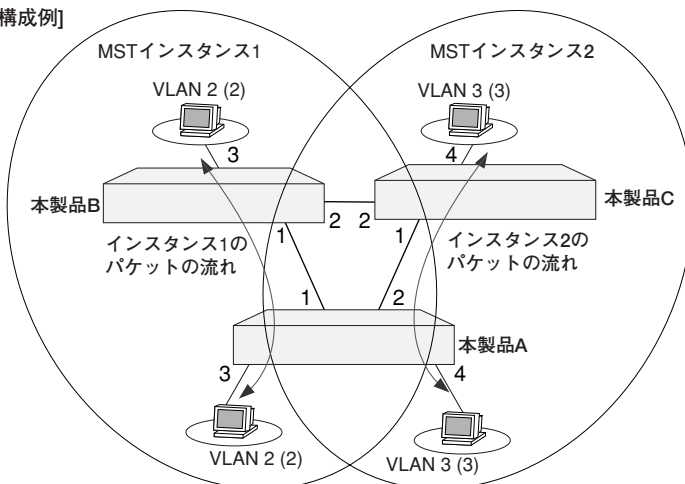
本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

### 6.2 本製品のマルチブラスパニングツリープロトコルについて

 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」 / 「Multiple STP」

本製品でサポートするマルチブラスパニングツリーの構成例および設定例は下記のとおりです。また、本製品が所属するネットワーク内に、ラピッドスパニングツリープロトコルを使用している装置が存在することは出来ません。

#### 【構成例】



#### 【設定例】

```

本製品 A
create vlan=vlan2 vid=2 taggedports=1-2 untaggedports=3
create vlan=vlan3 vid=3 taggedports=1-2 untaggedports=4
activate mstp
enable mstp
set mstp configname=engineering revisionlevel=1
set mstp cist priority=0
create mstp mstiid=1 mstvlanassoc=2

```

```
set mstp msti mstiid=1 priority=0
create mstp mstiid=2 mstvlanassoc=3
set mstp msti mstiid=2 priority=0
set mstp port=3 edgeport=yes
set mstp port=4 edgeport=yes
本製品 B
create vlan=vlan2 vid=2 taggedports=1-2 untaggedports=3
create vlan=vlan3 vid=3 taggedports=1-2
activate mstp
enable mstp
set mstp configname=engineering revisionlevel=1
set mstp cist priority=1
create mstp mstiid=1 mstvlanassoc=2
set mstp msti mstiid=1 priority=1
create mstp mstiid=2 mstvlanassoc=3
set mstp msti mstiid=2 priority=1
set mstp port=1 intportcost=50000 stpid=2
set mstp port=3 edgeport=yes
本製品 C
create vlan=vlan2 vid=2 taggedports=1-2
create vlan=vlan3 vid=3 taggedports=1-2 untaggedports=4
activate mstp
enable mstp
set mstp configname=engineering revisionlevel=1
set mstp cist priority=2
create mstp mstiid=1 mstvlanassoc=2
set mstp msti mstiid=1 priority=2
create mstp mstiid=2 mstvlanassoc=3
set mstp msti mstiid=2 priority=2
set mstp port=1 intportcost=50000 stpid=1
set mstp port=4 edgeport=yes
```



## 7 未サポートコマンド (機能)

---

以下のコマンド (パラメーター) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

```
SET SYSTEM DISTINGUISHEDNAME
MENU
EXIT
SET SWITCH CONSOLEMODE
SHOW CONFIG [INFO]
SET AUTHENTICATION METHOD=TACACS
ADD/DELETE TACACSS SERVER
SET DOS LAND [MIRRORPORT=port-number]
SET DOS TEARDROP [MIRRORPORT=port-number]
PURGE SNMPV3
ENABLE/DISABLE/SET/SHOW HTTP SERVER
SET SWITCH PORT
[BACKPRESSURE={YES;NO;ON;OFF;TRUE;FALSE;ENABLED;DISABLED}]
[BPLIMIT={1..7935}] [FCTRLIMIT={1..7935}] [SPEED={1000MFULL}]
SET SWITCH PORT SECURITYMODE=PACONTROL
CREATE/DESTROY/ADD/DELETE/SET/SHOW LACP
SET MSTP PORT [EXTPORTCOST]
DELETE SWITCH FILTER VLAN={vlanname;1..4094}
DELETE SWITCH FDB VLAN={vlanname;1..4094}
CREATE/SET CLASSIFIER [TCPFLAGS={URG;ACK;PSH;RST;SYN;FIN;ANY}]
ENABLE/DISABLE/SET/SHOW/PURGE GARP
SET VLAN={vlanname;1..4094} [TYPE=PORTBASED]
CREATE/ADD/DELETE/SET/SHOW/PURGE PKI
SET/SHOW SSL
```

## 8 取扱説明書・コマンドリファレンスについて

---

最新の取扱説明書「CentreCOM 9408LC/SP・9424T/SP 取扱説明書 (J613-M0109-10 Rev.B)」およびコマンドリファレンス「CentreCOM 9400 シリーズ コマンドリファレンス 1.1 (J613-M0109-12 Rev.D)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのマニュアルが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

取扱説明書のパーツナンバー「J613-M0109-10 Rev.B」は 1 ページ目 (表紙) に、コマンドリファレンスのパーツナンバー「J613-M0109-12 Rev.D」はコマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>





